

南島原市冬のお祭り実行委員会（長崎県南島原市）

このまちはローマとつながっている 戦国時代のクリスマス

南島原市冬のお祭り
実行委員会
事務局長
すえなが とおる
末永 透



1. 南島原市の概要

南島原市は、長崎県の南部、島原半島の南東部に位置し有明海をはさんで熊本県天草地域に面しています。

地勢は、1,000メートルを超える雲仙普賢岳の山麓から南へ広がる肥沃で豊かな地下水を含む大地を有し、魚介類豊富な有明海及び橘湾に広く面する海岸線を持っています。

また、日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園及び島原半島県立公園に指定されており、雄大な山々と美しい海を併せ持った風光明媚な地域です。

南島原市は江戸時代前期の島原の乱により住民はほぼ全滅したと言われています。その後の徳川幕府の移民政策により九州各地や小豆島から農民が移住し、このときに特産品である手延べそうめんも伝えられたと言われています。

平成18年度には8つの町が合併し、南島原市が誕生しています。

2. 活動開始の背景・経緯

南島原市は、日本で最西端の長崎県に位置しています。大陸には最も近いという地の利を生かして、400年前の戦国時代には、南蛮貿易などの地域振興策が図られました。キリシタン大名有馬晴信の庇護の下、キリスト教とともに日本で初めてのイエズス会の中等教育機関「有馬のセミナリヨ」が城下町に設立され、ルネサンス期の教育が戦国時代の日本に導入されています。西洋音楽、美術、ラテン語、地理学などが教えられ日本での西洋教育の発祥地となりました。日本で初めてのヨーロッパ派遣団「天正遣欧少年使節」は、有馬のセミナリヨの第1期生でした。輝かしい歴史を持つ地域ですが、その後の島原の乱、幕府の弾圧等により、住民は総入れ替えとなり、キリシタン時代の記録も徹底的に処分・

焼却され、日本国内にはほとんど残されていません。しかし、イタリアのローマには宣教師たちが書き送った報告書「イエズス会の日本年報」などが残されており、当時の報告書から400年前、国際化が進み生き生きとしていたふるさとの様子がよく分かるという日本国内でも稀有な歴史を辿った地域が南島原市です。



日本初のヨーロッパ派遣団「天正遣欧少年使節」

3. 小学校校庭の巨木をクリスマスツリーにしたい。一人の青年の声

イベントは「小学校の巨木をクリスマスツリーにしたい」との青年の一言から始まりました。おりしも何らかの地域振興策・若者の交流の場を模索していた青年たちが立ち上がり、平成9年度にイベントが始まりました。小学校の校庭の立木とは言っても、高さは30メートル。誰が巨木にイルミネーションを取り付けるか、1回目の作業は難航しましたが、高所作業車の免許を持っていた青年がいたことから、作業は無事に進みました。校庭の巨大ツリーは、年末になるとクリスマスツリーに姿を変え、現在では南島原市の冬の風物詩へと成長しています。



高さ30mのクリスマスツリー

イルミネーションの取り付け作業は、実行委員会の電気工事業、大工、土建業の会員が持ち前の特技を駆使しています。更に取り付け経費は、高所作業車のリース料と弁当代のみで人件費ゼロという、超経済的なボランティアによる巨大ツリーでもあります。

4. 市内27団体による実行委員会に成長。中学生も地域貢献に協力

巨大ツリー周辺の県道の街路樹には、長崎県等が根本にコンセントの配線工事を行いました。街路樹170本、長さ1.6キロの県道は、イルミネーションの道を形成し、イベントのシンボルである巨大ツリーにつながっています。

イベント開始当時は、青年のみであった実行委員会は、地域団体27団体での実行委員会に成長し、併せてイルミネーションの取り付けなどは、中学生が積極的な地域貢献の場として、ふるさと自慢のツリーづくりに協力しています。

5. 知らせたい、楽しみたい。ふるさが歩んだ西洋との交流史

島原の乱の前、西洋との盛んな交流により栄えた南島原市ですが、祖先が入れ替わった私たちには、400年前の文化は、ほとんど注目されてきませんでした。しかし、西洋交流史の専門家の講話等により、この地では、グレゴリオ聖歌が歌われ、西洋画が描かれ、ラテン語による討論会まで開催されていたことがわかりました。ほとんどの日本人は、地球が丸いことを知らなかった戦国時代の出来事です。

実行委員会では、当時の西洋音楽を聴いてみたい・歌ってみたい、南蛮料理を食べてみたいとの意見が出されました。町内のピアノ教室の先

生の協力により、聖歌隊「コルス・アンジェリクス（ラテン語で天使たちの合唱団の意味）が結成され、当時の日本人たちが初めて聞いたグレゴリオ聖歌、西洋音楽が、イベントの場で再現されました。西洋音楽再現は、400年前にセミナリヨが置かれ、実際に歌われた地であるからこそ、意味があり、感動を呼ぶものであると考えています。



聖歌隊による西洋音楽再現

さらに当時の記録を収集し、南蛮料理の再現にも取り組みました。たまたま、フランス料理の料理長が大阪から移住してこられたことから、実行委員会に加入していただき、イエズス会の文献を参考に、大名クラスが食べたと思われる南蛮料理9品を再現しました。さらに貴重な輸入砂糖を使用したポルトガルのお菓子再現、ポルトガル大使館から推薦を受けた、大航海時代の流れをくむワインの販売も行っています。



南蛮料理を再現

市内外の来客の皆様には、歴史を伝えるのは容易ではありませんので、400年前を聴いたり、食べたり、飲んだりする形に変換して、わかりやすく体験型でふるさとが歩んだ歴史と地域振興をアピールしています。

6. ローマに伝えられた南蛮行列

イベントでは戦国の世に平和を祈った南蛮行列を現代の市民が再現しています。町の城下町の通りでのキリシタンたちの行列は、ローマに事細かに報告されていることから、市民が有馬の家臣団、天正遣欧少年使

節、セミナリヨの生徒たちに扮して行列を構成しています。400年前、西洋に開かれた南島原市の存在を、内外にアピールしています。はるか遠いローマに伝えられた報告書による歴史的資産の活用であり、本イベントの最大の見せ場となっているシーンです。南蛮行列には、市内の保育所の幼児から小中学校の児童生徒、PTAの保護者の皆さんなどが参加しています。忘れ去られた南島原市の国際交流を体験型でイメージできる場となっています。



城下町に行く南蛮行列

7. 戦国時代の授業を400年ぶりに再現

平成23年度にはローマに伝えられた有馬のセミナリヨの再現事業を実行委員会の関係団体が実施しました。授業には当時の生徒と同年代の中学生13名が参加。セミナリヨの日課表に基づく宿泊型の再現事業は、西洋音楽、ラテン語授業、早朝4時半起床、1日2回の食事など当時の西洋文化を学習する場を400年ぶりに再現しました。



400年ぶりにセミナリヨの授業

生徒の募集を全国公募で実施した翌年度は、南島原市で授業を受けた生徒8名をイタリア・ポルトガルへ平成遣欧少年使節団として派遣。当時の少年たちの世界的視野を現代に再現し、南島原市としては天正遣欧少年使節派遣以来、実に430年ぶりのヨーロッパ派遣となりました。

8. ユネスコの世界遺産登録に向けての民間支援

南島原市内には日野江城跡、原城

跡など当時のキリスト教の繁栄と滅亡を物語る資産が残されています。南島原市が持つ2つの史跡は、ユネスコの「長崎の教会群とキリスト教関連資産」に暫定登録されており、世界遺産の本登録に向けての活動を強化しています。キリシタン文化を先進的に取り入れた栄光の部分と島原の乱による徹底的な破壊の影という2つの側面を歩んできたのが南島原市です。日本国内でも希少な歴史が、ユネスコの世界遺産登録により世界中にアピールできるよう、イベントを通じて民間からの側面支援として協力しています。

9. 400年前の住民たちの先見性を現在に

日本が鎖国前の時代において、ヨーロッパから日本までは船で片道2年半。命がけて日本へやってきたヨーロッパの人々との交流は、キリスト教布教に留まらず、当時の領民たちとの国際交流につながりました。多くの最先端の文化が伝来し、日本の窓口の一つであったのが、有馬領であったことを本イベントでは取り上げ続けてきました。イベントを通じて、南島原市が持つ明るい国際交流にスポットが当てられ、遠い過去の歴史ではありますが、現在の地域住民にも地域の誇りとしての意識が芽生えています。

また、有馬のセミナリヨの授業再現事業で選抜された中学生による平成遣欧少年使節が、ヨーロッパを訪問したことにより、ポルトガル、イタリアの関係都市との友好都市締結の動きも始まりました。



会場とローマをライブ中継

大航海時代のヨーロッパと日本で繰り返し広げられた南島原での国際交流。400年もの歳月を経て、当時の有馬領の領民たちが夢見たヨーロッパの都市との交流が本格化しそうです。当時の住民たちの国際的先見性が、現在に展開されようとしています。